



SPIRITUAL COMMONSENSE

# 地球を救う 靈的常識

桑原啓善 話

3





## 序

死は、終わりでなく、肉体という鳥籠から放された小鳥が虚空に舞い上がるように、生命のふる里に帰ることです。不滅の新しい生命に旅立つことです。これは数多くの臨死体験例をみても察しがつくでしょう。供養とは、この素晴らしい事実を知らずに死んだ、迷った魂の目を開いてあげることです。一円のお金もかからず格式ばった儀式も不用。魂が魂に呼びかければよいことです。

最近の朝日新聞の世論調査によると、死後も魂があると考える人は五〇%、若い人達では六九%に及ぶそうです。つまり死後の生存が常識になりつつあります。それなのに科学はそれを認めず、社会の常識はお金（物質）第一主義でチグハグ。そのために青年達は邪教に首を突っ込んだり、オカルトや超能力や占いブームにふりまわされて、逆に道を迷い、不幸と、地球の破壊をすすめる

状況になっていきます。今日ほど、魂が不滅なら、どう生きたらよいか、その正しい霊的常識が必要な時はありません。

真理は常に単純なのです。人も霊、死者も霊なら、心の波動と波動で感応し合うのです。だから人は宇宙に満ちる霊のうち、神霊や高級霊といつも感応し合っていればいいのです。その秘訣は特殊な行法や、出家や、超能力や、自分の利益を願う祈りでなく、毎日の自分の生活の仕方にあるのです。つまり高級霊と同じように世のため地球のため人のために生きればいいのです。これが高級霊と結び付く不滅の宇宙法則（物理的波長の法）です。今日のエゴイズムの現実社会こそ、深山や寺社や道場にもまして、もっともつと厳しい修行の場です。ここで本当の愛と奉仕に生きられたら、最高の修行、そしてそれが神霊とあなたがいつも一つになっている、切るに切れない絆きずなです。これをごまかして、さも別にいい道があるようにみせかけ、金儲けをしているのが地球にはびこる

宗教や、チャネリングや超能力ブームです。

人は不滅の霊です。不滅とは神と同じように神性です。だから人は神の分身です。この単純な真理に気づいて、あなたが今日、神のように生きようと決断なさるなら、その時からあなたの前途はもつれた紐を解くように、スラスラと展開を始めるでしょう。これが人が新しく生まれるということです。

真理は常に単純です。それは決断で生かされ、生かす場は現実の生活です。一円のお金もいらず、決断すれば子供でも出来ることです。私はこの不滅の真理を、近代心霊研究に立ったネオ・スピリチュアリズムとして説きます。本書は日頃の談話を集めて『地球を救う霊的常識』シリーズとした第三巻です。

平成七年十一月十三日

桑原啓善　しるす

---

## 新装版の出版にあたって

---

本書は、長らく品切れ状態となっていた一九九五年出版の『地球を救う霊的常識』の新装版です。本書の再刊を望む声は多く、当時よりさらに地球環境も人類社会も危機的状況となった現在こそ、本書は必要であると判断し、再刊することにいたしました。

本書は桑原啓善氏が30年以上前に講義した内容の要旨です。現在では使われていない表現や異なる知見もありますが、大意は何ら変わらないので、著者を尊重して原文のままにいたしました。必要に応じて、編集の（注）を本文中には（編注）で、長文の（注）は各項目の最後に（編注1）のように記しました。本書『霊的常識』は、桑原啓善氏が近代心霊研究の正統な流れを継承し、

さらに進展させて理論体系化したネオ・スピリチュアリズムによるものです。これは日本古来の生命一元論（ワンネス）に立脚した、不滅の霊である人間の新しい生き方を示すものです。すなわち一段進化した人間の生き方——自己中心ではなく利他（愛と奉仕）の生き方を説くもので、現在の常識的生き方とは正反対、180度異なります。けれども、その主旨は一貫しており、すなわち「真理は単純」なのです。本書を理性の目でお読みになればどなたにでも、この人間の生き方がお分かりになると信じます。

二〇二五年一月一日

（筆録者 熊谷えり子）